

受験勉強で得たもの！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

2020年の受験もいよいよ最終盤です。すでに結果の出ている人もいる中で、これからの第一志望に向けて頑張っている生徒もいるかと思いますが、ここは心を決めて、周りに振り回されることなく自分の目標達成に向けて最善を尽くしてほしいと思います。

中学受験、高校受験、大学受験について考えると、それぞれが体験としての価値があります。個人によって違いはあると思いますが、塾で指導している立場から言うと、中学受験は「自立への一歩」、高校受験は「大きな自己改革と成長」大学受験は「将来を決定する大きな一歩」というような位置づけになるかと思います。受験をひたすら悪いことのようにとらえる見方もありますが、実は得難い体験と考えるべきだと思っています。

人が目標を立てた時、必ずそこに困難が立ちはだかります。足りない学力、それを補うのには圧倒的に足りない時間、学習をしていくのに必要な環境とか指導とかも個人で状況が違います。それを克服していくために工夫することが多分、受験勉強から得られる最大の価値だと思います。前向きにとらえ取り組むべきことのように思います。

2019年もたくさんの自然災害に見舞われました。今も新型コロナウイルスで、世界は揺れ動いています。災害や病気に見舞われるという事は、いきなり今いるところに、大きなマイナスを突き付けられることなので、そこからはいあがることの厳しさは想像を超えるものです。順調に向かっても「つらい」と感じる人が多いのに、いきなりマイナスの状況に引きずり降ろされて、人は頑張れるものなのだろうかと思えます。

そこで頑張っている人たちは、その困難の中で自分が乗り越えるという経験に至ります。

くじけてしまったらそこで終わりだからです。そうした現実起こっている厳しい出来事に比べたら「受験」などはそこまでの深刻なことではありません。

今いる自分に磨きをかけて、レベルを上げ、目標を達成するというポジティブな体験だからです。ただその体験の中に、いずれ出会うかもしれない困難に立ち向かう事へのアプローチがあるように思うのです。

時代は、ITの進展により大きく変化しようとしています。2020年度からは、小学校の教科書が変わります。2021年度には中学校の教科書が変わります。もうすでに新しい教育のスタイルは浸透しつつあるのに、古い考えにとりつかれたグループも生き残ってはいます。新しい波が目指しているのは、AIによる産業の変化に対応した新しい職業観に対応できる「教育」という事です。グローバル社会での人と協働で問題を解決し、何かを成し遂げていくコミュニケーション能力も問われます。

受験を終わってホッとする間もなく、自分たちの将来を新しい流れに沿って準備していくことになります。受験勉強での成功も失敗も、そこでの人間関係もすべて、次の準備へのヒントになるはず。そういう実り多い受験体験であってほしいと願っています。